

佐田憲映



岡山大学病院リウマチ膠原病内科 准教授/高知大学高知県臨床研究フェロシッププログラム整備支援プロジェクト 准教授

日本リウマチ学会認定専門医/指導医/評議員・日本腎臓学会認定専門医/指導医/評議員・日本透析医学会認定専門医/指導医・日本内科学会総合内科専門医/認定指導医/中国支部評議員・日本臨床疫学会臨床疫学上席専門家・医学博士

1997年岡山大学卒業。市中病院の研修を経て2002年に帰局。2006年より助教、2011年より講師、2015年より准教授。2019年からは高知大学にも勤務している。

2008年より6年間、厚生労働省難治性血管炎に関する調査研究班の分担研究者・事務局として ANCA 関連血管炎を対象とした多施設共同前向きコホート研究 (RemIT-JAV・RemIT-JAV-RPGN・Co-RemIT-JAV・Co-RemIT-JAV-RPGN) の計画・実施に携わり、日本人 ANCA 関連血管炎患者の特徴やわが国の診療実態などを明らかにしてきた。また得られた貴重なデータや検体などを有効に活用し、協力施設からも多くの研究成果を発表できるよう、二次研究の推進にも力を入れている。この経験をもとに、2015年から全身性エリテマトーデスを対象とした多施設共同疾患レジストリ LUNA を昭和大学と開始、現在参加施設 10 施設、登録症例 1400 例まで拡大している。このレジストリのより円滑な運用を目指して、科研費基盤 C「膠原病レジストリにおける患者報告型アウトカム測定システムの開発と診療の質の検証」にて、スマートフォンやタブレット端末を介した患者報告型アウトカム収集システムを開発中である。

臨床研究教育面では、2007年に「第4回腎・透析医のための臨床研究デザイン塾」に参加し、個人賞である i-Hope international 賞を受賞。以後も毎年、講師・ファシリテーターとして臨床研究者育成のプログラム・ワークショップに関わっている。昨年、今年は臨床研究初学者を対象としたワークショップ「臨床研究てらこ屋」のプログラム委員長も務める。現在、高知県・高知大学の協力を得て、高知県西部にある幡多けんみん病院で2020年度から開始予定の、地域医療に貢献しながらプロテクトされた研究時間を使って優れた研究者を育成する「高知県臨床研究フェロシッププログラム」を準備中である。

また、新しい臨床研究の形として、患者さんが、主体的に情報や悩みを提供し、医療者や研究者と共に臨床研究によって問題を解決していくことを目指して設立された社団法人 PeDAL (Patient Driven Academic League) の理事も務める。